

ALPS H30 年度海外派遣 ウェブ記事

タイトル「異国、異文化、異分野の体験」

化学専攻博士2年 遠藤 健一

2018年10月1日から12月26日まで、私はドイツの Phillip-Universität Marburg に留学し、Eric Meggers 教授の指導のもとで研究を行った。異なる分野の研究に参加し、研究自体も非常に興味深かったが、それよりも専攻や研究室のシステムの日本との違いに驚いた。NMR などの測定装置は専攻共有であり、サンプルを提出するだけで自分で測定を行うことはなかった。個人的には自分で細かく設定して測定を工夫するのが好きだったので残念だったが、時間を節約して効率的に研究を進められる場合もあった。また、他にも汎用試薬・窒素ガス・脱イオン水なども専攻共有の設備となっており、非常に便利だった。研究室では日本と違って助教がいないため、基本的に上級生が下級生を指導するようなシステムになっていた。そのためか、教授による研究テーマの与え方は、修士の前半には上級生の手伝い、修士の後半は上級生に似た別のテーマ、博士は全く新しいテーマとなっており、学生が徐々に自立するようになっていた点が興味深かった。

